

日本写真印刷株式会社
「2016年3月期第2四半期決算説明会」
質疑応答の概要
(2015年11月6日開催)

Q1. ディバイス事業のタッチパネルを車載分野において展開する可能性はあるか？

A1. すでに産業資材事業のIMDと組み合わせた製品など、採用実績がある。こうしたモジュール製品を供給するためのサプライチェーンの構築に取り組んでいる。

Q2. 8月に買収したAR Metallizingグループは、来期には利益貢献が見込めるか？

A2. 来期までは利益がのれん償却と相殺される可能性が高い。

Q3. 情報コミュニケーション事業の概況について説明してほしい。

A3. 情報コミュニケーション事業は7月より分社化を行った。この第2四半期では赤字にとどまってしまったが、第3四半期以降もう一段のコスト削減に取り組み、通期での黒字化を達成したい。

Q4. ライフイノベーション事業の概況について説明してほしい。

A4. ライフイノベーション事業は、事業としての立ち上げのステージにあり、収益の貢献は限定的であるものの、計画に沿って順調に事業活動を行っている。

Q5. 設備投資額、減価償却費、研究開発費の見通しに変化はないか？

A5. 通期の見通しに大きな変化は生じていない(設備投資約60億円、減価償却費約75億円、研究開発費約28億円の水準)。

以上